

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
環境についての学習	◎くらしを取りまく自然を大切にしたいのちと向き合う。 ◎地域を愛する心を育てる ◎地域の環境に意識を向けて、危険を予測して事故防止ができるようにする。	1	植物を育てよう	1~4年担任	1~4年児童	・1~4年生は、サツマイモ、あさがお、ラディッシュ、パンジー、菜の花などの野菜や植物を育て、校舎の周りを植物でいっぱいになるような活動を行った。また、育てた花の一部を卒業式の飾りつけにも利用しながら、学校全体の明るい雰囲気づくりに貢献していた。 ・2年生は、育てたラディッシュやほうれん草を使って、お雑煮を作った。また、間引いた作物を使ってみそ汁をつくる活動を通して、自分たちが育てたものをいただくことの素晴らしさや、育った恵みを大切にすることのよさを実感することができた。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 多くの学年が、ほかの学年の取り組みに対して、相互に関わりながら活動を行い、活動が学校全体に広がっていったから 【今後の課題】 引き続き、今年度の活動を行っていけるよう、引継ぎ体制をとっていく必要性を感じた。
		2	花いっぱいにして	1年各担任	1年児童		
		3	学区内の危険箇所調べ	3年各担任	3年児童		
電気、水、物を大切に使う活動	◎無駄な電気や水を使わないように行動できるようにする。 ◎浄水場と水道記念館の見学。飲み水として利用できるまでの流れを理解する。 宮が瀬ダムを見学。 ◎ダムの必要性と水の大切さを学ぶ。	1	工夫して生活をしよう	各学年担任	全学年児童	・3年生の図工「生まれかわったなかまたち」の単元で、古くなった衣類を使って新たな生き物に変身させる作品づくりをした。その衣類を使っていたときの思い出話をしながら作品づくりを行い、ものを大切に、新たなものにリメイクして使うことのよさを実感することができた。 ・1年生の図工「すてきボード」の単元で、廃棄になる段ボール、校庭で拾ったドングリを使って、素敵なボードを作った。出来上がった作品を、卒業する6年生に向けてプレゼントする活動をした。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 多くの学年が、ほかの学年の取り組みに対して、相互に関わりながら活動を行い、活動が学校全体に広がっていったから 【今後の課題】 引き続き、今年度の活動を行っていけるよう、引継ぎ体制をとっていく必要性を感じた。
		2	水はどこから	4年各担任	4年児童		
		3	廃材を生かした工作	各学年担任	全学年児童		
捨てるごみを減らす活動	◎ごみを出さないよう工夫すること、リユースの意識啓発。 ◎地域のごみを減らす。 ◎環境事業センターの見学。ごみ減量の必要性について考える。	1	ごみを生かして	各学年担任	全学年児童	・4年生は、環境事業センターへ見学に行った。そこでは、ごみ処理の仕方や、今年から始まったごみ袋有料化になった経緯や、これからの未来に向けて自分たちに何が出来るか考え、学ぶことができた。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 多くの学年が、ほかの学年の取り組みに対して、相互に関わりながら活動を行い、活動が学校全体に広がっていったから
		2	ごみはどこへ	4年各担任	4年児童		

(様式1) 学校エコ活動シート

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



4年生は、環境事業センターへ見学に行き、職員の方からごみが有料化した理由や、ごみを出すときに気をつけてほしいことなどを聞きました。環境事業センターでは、どれくらいのごみが出され、それらをどうやって処理しているのかを目にして、これからの未来に向けて何ができるのかを考えることができました。



2年生は、間引いた作物も大切に、お味噌汁にして食べました。



1年生は、段ボールやドングリ、あさがおの種を使って、素敵なボードを作りました。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

渡邊 美和

【今後の方向性について】

これまで同様に、体験活動や身近な題材を使うことを通して、子どもたちは環境問題の大切さをより実感することができた。さらに、学年の枠を越えて、異学年交流の中で学んだことは、いずれ自分たちも教える側に立とうとする学びの継続性も生み出した。

今回4年生は、資源物を回収する「パッカーくん」に来てもらい学習し、職員の方から「ごみが有料化した理由」や、「ごみを出すときに気をつけてほしいこと」等を聞いた。また、環境事業センターの見学では、どれくらいのごみが出され、それらをどうやって処理しているのかを見学し、これからの未来に向けて何ができるのかを改めて考えることができた。

身近なものから学ぶことにより、身近なものに意識が向いてくる。環境学習について低学年から積み上げていくことにより、児童一人ひとりが問題意識を持てるようになるので、今後はそこから発展的な学びへと展開していきたい。また、できる範囲で見学等を実施して、映像ではなく直接見聞きしていくようにしていきたいと考える。